

2026 年度入学者選抜 II 期

心理学実践研究学位プログラム 臨床心理分野

解答例

■ I.

- a. 倫理的ジレンマ（倫理的葛藤） b. アドバンス・ケア・プランニング c. 二次的外傷
d. メタ分析（メタアナリシス） e. 連合 f. 喪の作業（モーニングワーク） g. モデリング（観察学習も可） h. 子ども家庭センター
i. 行動活性化療法 j. 社会的妥当性 k. 単純主効果の検定 l. COCOLO プラン
m. ディスレクシア（発達性読み書き障害） n. ソマティック・マーカー
o. 認知的評価 p. レミニッセンス・バンプ q. リスク・アセスメント
r. 観念運動失行 s. リカバリー t. パーソン・センタード・ケア

■ II.

1. 回答のポイント

- ①治療の継続について確認（主治医の確認）。
②主訴に関する情報収集（含、発達特性への理解や受容の程度）と心理相談への希望を確認。
③支援方針の共有：主訴に対して、どのように見立て、心理相談で何を行っていくのか（本人、家族、学校・医療機関との連携など）
④支援目標を具体的に決める：本人、家族、その他関連機関ごと

2. 回答のポイント

- ①依頼された際の目的や、クライアントの処遇や治療方針を決めるための参考になるように情報を整理し報告する。
②心理的側面のみでなく、生物学的側面や社会環境も統合して報告する。
③分かりやすさを優先して、心理学の専門用語の使用を控えて説明する。
④検査時の被検査者の緊張や意欲、態度についても解釈に含める。

3. 回答のポイント

- ①クライアント感情の受け止め…1年前の体験による傷つき（含む親子関係悪化）や辛さ＋今この場での不安への声掛け
②守秘義務の説明…安心して話してもらうため＋専門家としての立場の説明
③率直な例外事項の説明…安全を守るため＋生命の危険がある場合など例外の説明
④今後に向けて…互いに勝手に何かを決めずに正直に話し合う＋一緒に考えながら進めていきたいと伝える

4. 回答のポイント

緘黙の理由を以下の方法を基に考え、処遇や更生の可能性を調査する。

- ①鑑別面接中の工夫や生活場面で話しかける等によりラポールを形成し、本人から話を聞く機会を増やす。
- ②心理検査を行い、本人の知的能力や発達特性、パーソナリティを把握。
- ③鑑別所内での本人の行動観察から他者とのコミュニケーション能力を把握。
- ④家族等周囲のものへ成育歴等の詳しい聞き取り調査。

■ III.

認知行動療法における介入研究の目的や仮説を正確に理解し、提示された分析結果に基づいて介入効果の成否を論理的に説明する能力を評価することを意図して出題している。

著作物の著作権許諾処理の問題により解答または解答例を公表することはできない。